

議題(1) 地区防災活動拠点等の「碧南市臨海公園」への変更について

1 経緯

県からの地域内輸送拠点及び救助活動拠点の調査において、選定するための条件等が示されたものの、現在指定している地域内輸送拠点及び救助活動拠点が条件に適合していない点があるため、地区防災活動拠点等変更の検討を行った。

2 変更内容（案）

(1) 地域内輸送拠点の変更

変更前（2カ所）	変更後（1カ所）
碧南高校 市役所	碧南市臨海公園 （ドーム、土広場及び多目的広場）

※ 適合していない点

碧南高校は、運動場には大型車は進入できず、ロータリーは狭いため積載・荷下を同時に実施できない。また、集積場所の体育館へは人力による運搬となる。加えて、学校が再開された場合、ロータリーに多くの車両が出入りするため学生の安全確保に問題がある。

市役所の集積場所は1階ホールとなっているが、容積及び業務に支障が出る等の問題がある。

集積場所を碧南高校体育館、荷役場所を市役所駐車場とした場合、県道303号線（平坂福清水線）を横断する必要があり、非効率である。

※ 選定理由

第1次緊急輸送道路に隣接し、かつ海の活動拠点である臨海広域防災活動拠点（衣浦港中央ふ頭東4号岸壁）にも近いため、物資搬入が容易であり、空間に余裕があるため悪天時以外は、広い仕分け空間が確保でき高い輸送効率を得られる。大芝生広場をヘリ離発着場に活用すればヘリによる空輸（物資空輸及び傷病者の広域搬送等）が可能である。

(2) 救助活動拠点の変更

変更前	変更後
玉津浦グラウンド	碧南市臨海公園 （臨海公園グラウンド、第2駐車場）

※ 適合していない点

玉津浦グラウンドは中型ヘリ離発着に必要なスペース（45m×45mのオープンスペース）を確保できるものの、自衛隊の宿泊地とヘリ離発着が接しているためヘリの吹き下げ流により、自衛隊の天幕（テント）が飛ばされる可能性がある。

加えて、通路、駐車場の全域及びグラウンドの大半部分の水捌けが悪く、雨天の場合は、テント等での野営は不適である。

※ 選定理由

県から示された大型ヘリ離発着に必要なスペース（100m×100m のオープンスペース）を確保できないものの、大型ヘリは離発着可能（100m×80m）であり、宿泊地の臨海公園グラウンドからヘリポートの大芝生広場まで約300m離れており、ヘリの吹き下げ流の影響がない。

加えて、玉津浦グラウンドに比べ水捌けが良く、臨海公園グラウンドの付帯施設（1F 会議室（60名収容可能）、医務室、本部席、放送室、審判室、更衣室、シャワー室）も利用が可能である。

新規防災活動拠点等配置図

